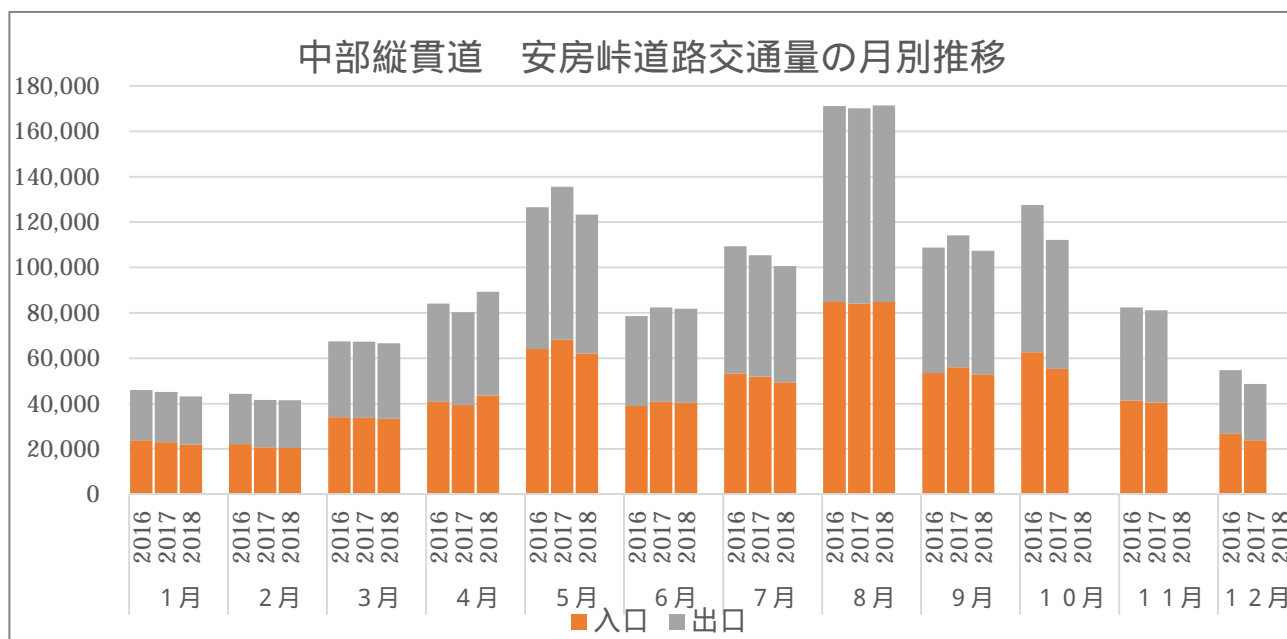


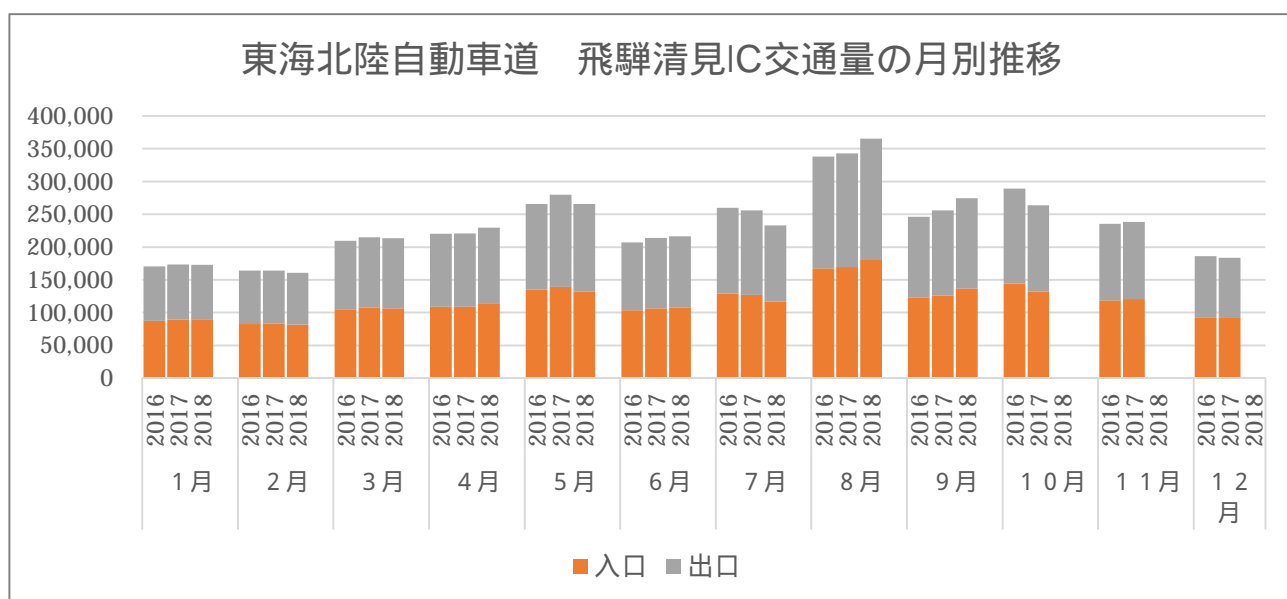
交通量からみる飛驒地域への流入の傾向

中部縦貫道 安房峠道路交通量の月別推移 (資料: 中日本高速道路㈱ 松本保全サービスセンター安房峠道路営業所)



本年1月～3月期は、若干減少のほぼ例年並みの利用数となっていたが、4月は「春の高山祭り」が、土曜・日曜となっていたため、利用者が増加した。しかし、5月は反動から大きく落ち込んでしまった。最盛期の夏～秋に向け期待は膨らんだが、7月と9月が異常気象により伸びはなかった。

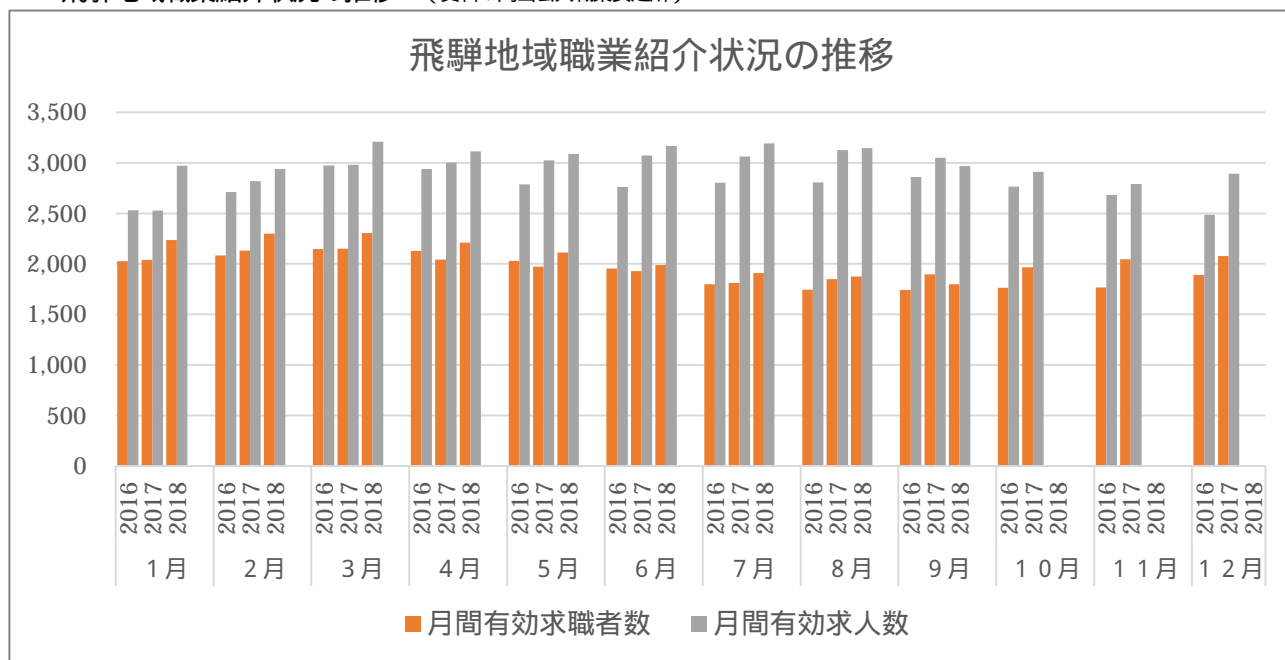
東海北陸自動車道 飛驒清見IC交通量の月別推移 (資料: 中日本高速道路㈱ 名古屋支社高山保全サービスセンター)



こちらも、“中部縦貫道 安房峠”と同じように、4月が伸び5月にダウンするといった現象であったが、8月からは増加傾向となった。そして、何より片側2車線化工事が急ピッチで進んでおり、一部通行も可能となり期待感が増しているため、今後の利用客増大が待たれる。

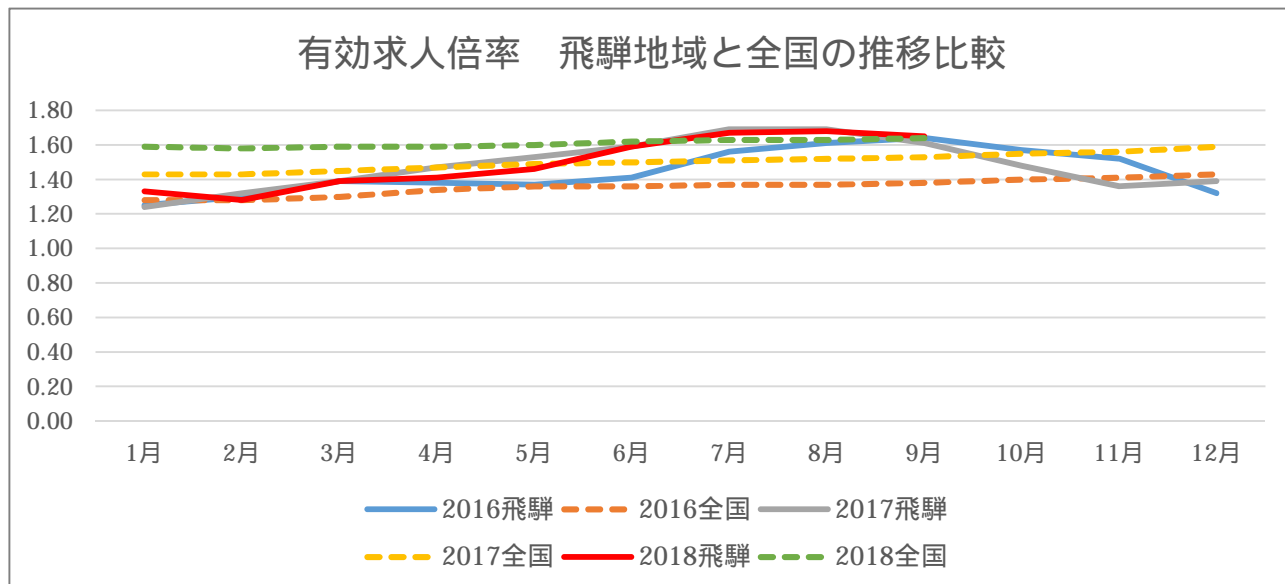
雇用状況からみる飛騨地域の傾向

飛騨地域職業紹介状況の推移 (資料: 高山公共職業安定所)



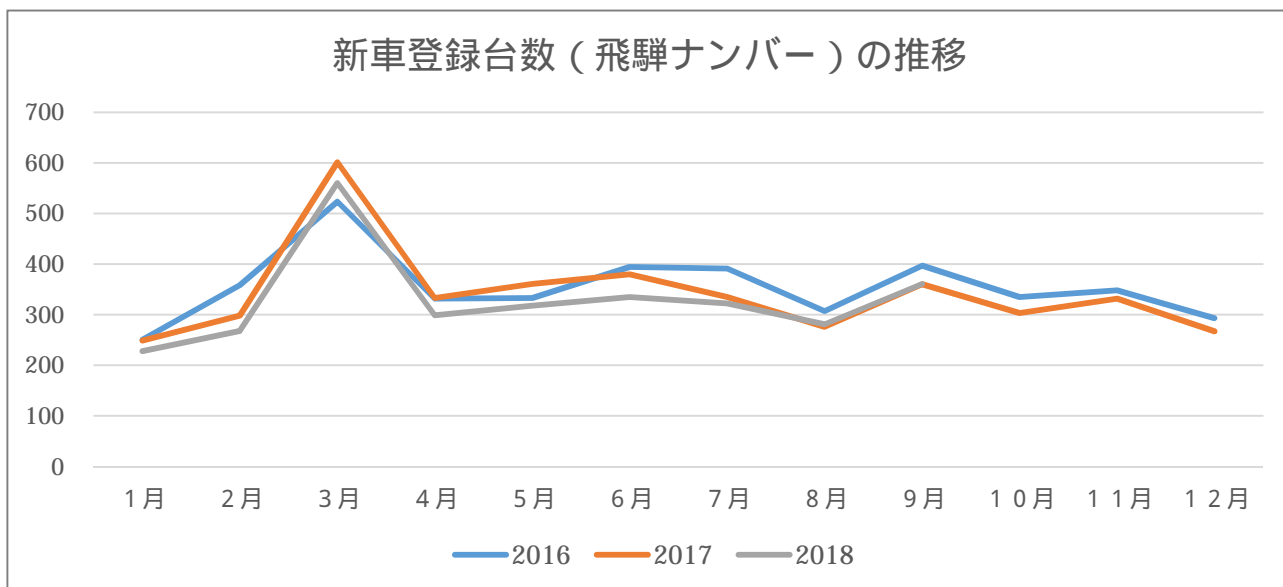
本年春頃から増大した有効求人数は夏季期間も高い水準で推移していたが、有効求職者数も比較的高い水準となっているため、岐阜県全体にみられるような求人難ほどではないと言える。ただ、観光産業をはじめとするサービス業の慢性的な人手不足は深刻度合いが高まっている。

飛騨地域有効求人倍率の推移 (資料: 高山公共職業安定所)



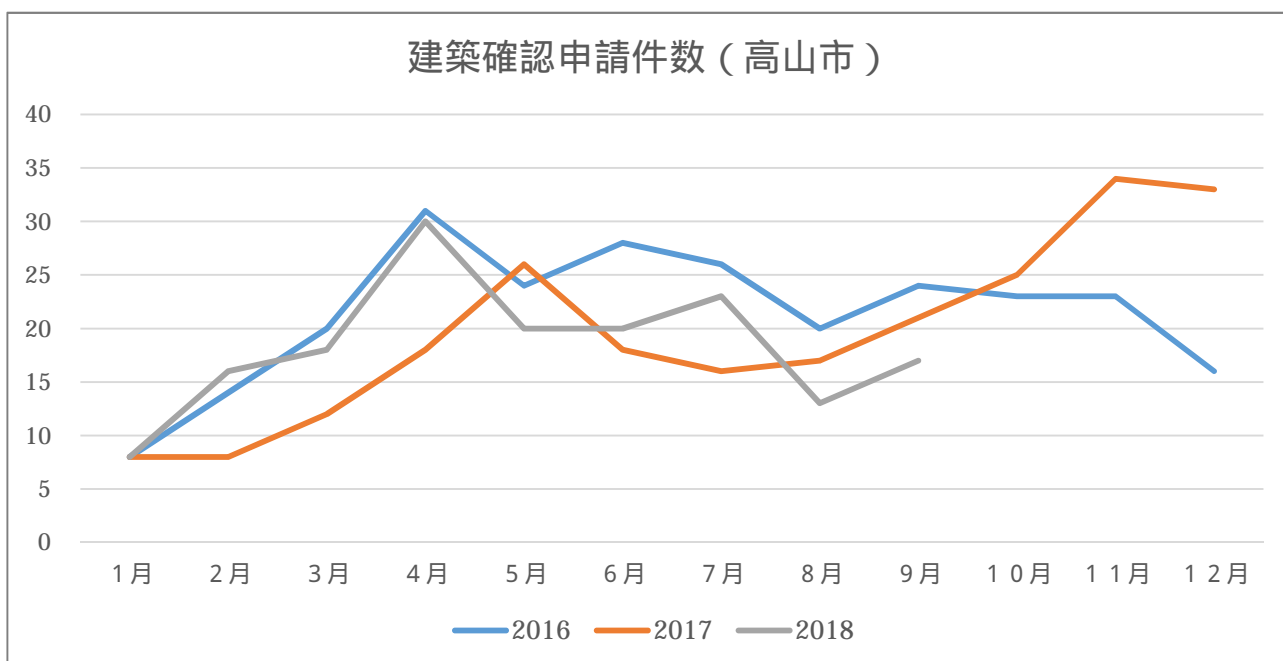
飛騨地域の有効求人倍率は、昨年夏場の1.69をピークに徐々に下落していたが、ここに来て8月1.68までじわじわと上昇している。「岐阜県」は6月に約26年ぶりの2倍超え(2.08)まで上昇、現在も2.02倍あり、全国の1.64を大きく上回る際立った労働力不足が顕著となっている。当地区は慢性化した労働力不足に加え、販売及びサービス業の求職状況が深刻である。

新車登録台数（飛騨ナンバー）の傾向（資料：飛騨自動車検査登録事務所）



昨年は前年比4%減少となり、人口減少の影響が出始めた感による不安が生じたが、本年は現時点で更に7%減少と本格的な販売不振が続いていることがわかる。高齢化と共に人口減少が更に加速すると想定されるので、販売重視から整備関連にシフトしていくことが求められている。

建築時確認申請件数（高山市）（資料：高山市基盤整備部）



確認申請件数においてははっきりとした規則性が見られない。昨年前半期は過去数年にない低調基調が連続したが、本年は現時点で対前年比15%アップとほぼ例年の水準で推移している。ただ、昨年は後半の申請が過去にないほど多かったため、低調であった昨年並みの水準と予想される。